

3289 欧州 88 夢紀行：空路ワルシャワへ

スイス・チューリッヒ空港。待ち時間を情報収集に動いた。両替などとして諸準備を整えた。
チューリッヒ空港は、ヨーロッパ中央部に位置している国際空港。ヨーロッパ各地にアクセスできる。
乗り継ぎのため、バス待合ブースで待機。ウォッチングする余裕があった。体調も回復。

トランジット、身体検査はするものの搭乗券のチェックはなかった。

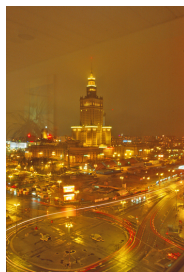
このバス待合所、リヨン（フランス）ジュセルドルフ（ドイツ）ワルシャワ（ポーランド）行き。

一人旅、乗り間違えると大変。自分の身は自分で守る。一人旅の必要絶対条件。

外観や服装だけではわからない。人相が良く見えない人もいる。まだまだ経験不足。仕方がない。

それでも、どこの国の人だろうかウォッチング。日本人は見かけない。人種様々。

予感。日本のように安全が当たり前と錯覚していたら、とんでもない事件に遭遇するだろう。無事な旅を心がけたい。



DOWÓD KUPNA-SPRZEDAŻY WARTOŚCI DEWIZOWYCH		Nr
Imię i nazwisko		KANTOR WYMIANY WALUT "ALTUR" S.A.
Adres		WD (7651) K-1728-90 02-145 Warszawa, al. Zwirki i Wigury 1 NIP 522-10-09-873, REGON 008164132
Nazwa i kwota kupionych - sprzedanych wartości dewizowych	Cena	Równowartość w złotych, groszach
1817 700	1,35	1225
Data i godzina wystawienia		podpis kasjera i jego pieczęć imienna
19980410		D

ポーランドの最高気温と最低気温。3月：5度とマイナス2度。4月：12度と3度、5月：19度と9度。

ワルシャワ到着は、4月9日、時期と天候のせいなのか、印象は暗く、

人々の眼の色も、心なし寂しく、鋭く感じた。経済面でも、ポーランドの中心地であるワルシャワ。

貨幣はズウォティ、日本円で約28円。現地で調達。

当時は、物乞いが目に入った。鉄格子の新聞スタンド。大資本のビルはあるものの、いささか寂しい。

教会も人も多い。暗い印象が離れない。貧富の差、これが普通なのかもしれない。宿は、ワルシャワだけ日本で予約。

安全のため少し高級ホテルを。上記はホテルの部屋からの眼下の夜景。

到着後、気を取り直し、街に散策に出かけた。最新の注意を払ったのは言うまでもない。
時差は8時間。身体が疲れるまで散策。旧市街の看板は面白く、写真に記録、いろいろコレクションできた。
いつか別の機会にご紹介できたらと思っている。

観光地、駅周辺には警察が目立ち事件の多さを予感させるには充分である。
何事も体験。旧市街の王宮広場から馬車に乗った。円形の砦バルバカン、中世の街並みも興味ふかく面白い。
お商売の看板には興味があったので集中した。色彩も造形もデザインも面白い。

日没は6時過ぎ。曇天で太陽がなく、午後3時頃から実にグルーミィ、憂鬱な気分になった。
ラッキーにも、サラダバーが目にとまり、夕食は、スープ、パン、サラダ、
珍味も試食、ひととき楽しい時間を持つことができた。幸い好き嫌いが無い。久業には、食は旅の楽しみ。

初日から歩き疲れて、足の裏にマメができた。仕事で来たのだから写真をとるもの、
素敵な記録に残したい被写体が見つからない状況。人にレンズを向けるのは、避けた方がいいと判断。
その当時のワルシャワ、貧富の格差。鋭く、貧しく、危険を感じた次第。

日本は平和ボケ？ 報道では、ワレサ議長の話を知っている。当時のポーランドの状況は、
その時の報道より進歩しておらず、建物、街並、人々の服装など印象が悪くなかった。住人の笑顔も見られない。
裏通りはなおさら。観光には特別の注意をはらう必要ありと感じた。

レンタカーを予約していたので場所の確認と交通量の状況や右折左折、通行区分帯や道路状況をチェック。
中心地での交通ルールや現場をウォッチングしているといろいろ判断材料が得られる。
特に、駐車場や駐車場の仕方、現場に行って確認、下調べを十分に。
車は、オートマティックではない。ギアチェンジのコラムシフト、経験があるが、慣れるまで大変。

経済が安定していないと、すべてに影響することを痛感させられた。私は日本の敗戦後の体験者。
自然が多くあっても、物を買うお金がないと生活できない。「衣食住って礼節を知る」治安も不安定になるのは当然。
大都会だけだろうか。地方に行けばどうか。農村地帯や海岸線に行けば…、想定すると不安。

決して、過剰反応ではなかった。外務省ゴルゴ13、10%の才能、20%の努力、30%の臆病さ。
本来なら40%の情報、ポーランド語はわからない。英語の案内は少ない。
道路の案内板も地名だけは理解できるように。自分の身は自分で守る。そんな第一印象で旅が始まった。